



よしのぶえいのうくみあい

吉延営農組合

～吉延の自然・棚田の原風景を将来へ～



吉延集落の棚田



田んぼアート田植え作業の様子

経緯

- 平成12年から中山間地域等直接支払制度の参加をきっかけに、地域の農地を地域で守っていくという意識が醸成。
- 共同で農道の舗装や機械の購入・利用を進め、農村環境の保全や持続可能な営農体制の確立を図り、平成19年1月に吉延営農組合を設立。

取組内容

- イノシシによる水稻被害が増加したため国からの交付金を活用し、防護柵を設置。
- 集落内へのライスセンターの設置、営農組合で使用する共同機械を整備し農作業を受託するなど、高齢者も営農が可能な体制づくりに取り組む。
- 高知大学や各関係機関と連携し、田んぼアート、棚田コンサートや棚田散策ツアーを開催し、交流人口の拡大を図る。

活動の効果

- 共同機械の整備、農作業受託や鳥獣被害防止対策などに取り組んだことにより、集落内で持続可能な営農への体制づくりに繋がっている。
- 地域資源である棚田を活かしたイベントの実施や棚田を見渡せる展望台と駐車場を整備、県内外からも人が訪れるようになった。
- 加工品開発、地域の伝統行事も当組織が中心を担うなど、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりができ、他地域のモデル的な組織となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農地の保全活動にとどまらず、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりを見せ、集落になくってはならない組織となっています。組織の体制強化や人材確保に努め、農村環境の維持・発展を目指します。